

授 業 目 名	高次脳機能障害学・評価法Ⅱ	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	2 年(前期)
担 当 教 員 名	前谷 一旗 仲山 晃生	単 位 数	1 単 位
		時 間 数	30 時 間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕 高次脳機能障害は、言語・認知・行為・記憶・その他の様々な知的能力、およびそれらの維持に必要な背景の障害のことであり、言語聴覚障害学の根幹をなすものである。このメカニズムを学び、将来、言語聴覚士として臨床に臨んでもらいたい。</p> <p>〔学習目標〕 高次脳機能障害により、さまざまな症状(記憶障害等)がoccurする。その症状について理解を深めること。</p>		
授 業 回 数	授 業 の 内 容		
第 1 回	高次脳機能障害とは(失語・失行・失認を中心に) [前谷]		
第 2 回	半側空間無視 [前谷]		
第 3 回	病態失認 [前谷]		
第 4 回	無視症候群 [前谷]		
第 5 回	Pusher 症候群など [前谷]		
第 6 回	注意障害 [前谷]		
第 7 回	記憶障害 [前谷]		
第 8 回	遂行機能障害 [前谷]		
第 9 回	認知症① [前谷]		
第 10 回	認知症②(HDS-R , MMSE など) [前谷]		
第 11 回	認知症③(CDR について) [前谷]		
第 12 回	せん妄について [前谷]		
第 13 回	高次脳検査について(症状と評価法) [前谷]		
第 14 回	スクリーニング検査(STAD) [仲山]		
第 15 回	さまざまなリハビリテーションアプローチ [仲山]		
評 価 方 法	定期試験で評価します(100%)		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 高次脳機能障害学(医歯薬出版)		
履 修 上 の 留 意 点	高次脳機能障害学・評価法Ⅰの復習をしておいて下さい		
メ ッ セ ー ジ	実習でも必要な知識が多く、よく復習して理解を深めて下さい		